

## 「JENESYS2.0」

### 中国野生動植物保護交流団

訪問日程 平成 28 年 7 月 19 日（火）～7 月 26 日（火）

#### 1 プログラム概要

中国国家林業局が派遣した中国野生動植物保護交流団計 34 名が、7 月 19 日から 7 月 26 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。（団長：張 志剛（チョウ シゴウ） 中国国家林業局 林業工作站管理総站 建設処処長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、交流団は、東京、埼玉、北海道を訪問し、環境省訪問や、自然観察公園、国立公園の視察、日本の野生動植物保護に関するブリーフ等を通じて、日本の同分野に携わる青年との交流を深めたほか、世界自然遺産や地域の文化、自然を体感できる施設を視察し、さまざまなプログラムを通じ包括的な対日理解を深めました。

#### 2 日程

##### 7 月 19 日（火）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

##### 7 月 20 日（水）

皇居二重橋見学、環境省訪問・ブリーフ、国会議事堂視察、東京タワー見学、歓迎会

##### 7 月 21 日（木）

商業施設視察、（公財）日本生態系協会レクチャー、埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園視察

##### 7 月 22 日（金）

北海道釧路へ移動、釧路湿原野生生物保護センター訪問、釧路湿原国立公園視察

##### 7 月 23 日（土）

阿寒湖畔エコミュージアムセンター訪問、阿寒国立公園視察、阿寒湖、摩周湖周辺見学、和風温泉旅館で日本文化体験

##### 7 月 24 日（日）

硫黄山、オシンコシンの滝見学、知床世界遺産センター訪問、知床国立公園視察

##### 7 月 25 日（月）

小清水原生花園見学、オホーツク流水館見学、東京へ移動、お台場見学、歓送報告会

##### 7 月 26 日（火）

江戸東京博物館見学、浅草寺見学、成田空港より帰国

3 写真



7月20日 皇居二重橋見学（東京都）



7月20日 環境省訪問・ブリーフ（東京都）



7月20日 国会議事堂視察（東京都）



7月20日 歓迎会 中原邦之 外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課地域調整官挨拶（東京都）



7月20日 歓迎会 張志剛団長（左）と江田五月日中友好会館会長（右）（東京都）



7月21日 （公財）日本生態系協会レクチャー、埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園視察（埼玉県）



7月22日 釧路湿原野生生物保護センター訪問  
(北海道)



7月22日 釧路湿原国立公園視察(北海道)



7月23日 阿寒国立公園視察(北海道)



7月23日 阿寒湖遊覧船に乗船(北海道)



7月23日 摩周湖見学(北海道)



7月24日 硫黄山見学(北海道)



7月24日 オシンコシンの滝見学（北海道）



7月24日 知床世界遺産センターのブリーフで質問をする団員（北海道）



7月25日 小清水原生花園見学（北海道）



7月25日 オホーツク流水館見学（北海道）



7月25日 お台場見学（東京都）



7月25日 歓送報告会で感想を発表する団員（東京都）



7月26日 江戸東京博物館見学（東京都）



7月26日 浅草寺見学 おみくじを引く団員（東京都）

#### 4 参加者の感想（抜粋）

○自然公園の建設という分野で日本政府がとった対策は大きな成果を上げている。特に国立公園の建設や、環境保護のためのチームづくりにおいて、豊富な経験を持っている。中国の国立公園建設は始まったばかりだ。建設に必要な管理者、専門の技術と技能を持ったスタッフのレベルは、先進国と比較するとまだ後れている。私たちは日本を含む先進国の経験を踏まえ、中国の国立公園の建設を加速させるべく、努力しなければならない。

○1. 国立公園の有効かつスリム化された管理方法。複数の部署が連携しあい、共同で国立公園をよく管理している。

2. 国民に対して、全面的な自然体験教育を行い、小さな頃から環境保護に対する強い意志を植え付けている。

3. 科学の普及のためのPRが上手く、関連施設も実用的で、且つ省エネを実現している。PRの内容も豊かで、その方法も多種多様だ。

4. 野生動物保護の対応策が完備されている。

○昔の人の言葉に「百聞は一見に如かず」というものがある。その他大勢の中国人も同様だと確信するが、実際に訪れる前に私が日本に持っていた印象は、歴史の教科書と新聞で報じられる内容の程度にとどまっていた。しかし私はずっと、中日両国の間には歴史の問題が横たわっているが、日本は文明が発達し、友好的な国であり、日本人も我々と同様に希望と平和、自由と発展を望んでいるのだと考えていた。

東京の地に降り立ち、北海道の自然の美しさを感じ、異なる文化を学び、友好を深め合った。この7泊8日の日程の間、数え切れない喜びと感動がいつも私と共にあった。予め、ああだろうな、

こうだろうなと心の準備をしていますが、美しい風景やユニークな文化、準備周到で友好的な人たちの姿に驚かされた。荘厳な国家議事堂に雄大な東京タワー、鳥のさえずりや花々が美しい釧路湿原国立公園に、晴天に恵まれた阿寒湖畔。いたるところで中日の青少年たちは共に進んだ足跡を残し、楽しそうな笑い声が響き渡った。野生動植物に関する専門知識の交流が中心ではあったが、文化・文明のぶつかり合いがより大きな収穫だった。参加者たちにとって、今回の活動の思い出は消えることなく心に刻みつけられるだろう。中日の友好のために、私たちも微力を尽くしていきたいと願っている。私たちの友情が末永く続きますように。

○今回の日本訪問ではたくさんの感動に出会い、日本の自然、文化、科学技術に大きく心を揺さぶられた。最も印象深かったことを下記に述べる。

1つ目は、専門のテーマにぴったり関連した活動だったこと。日本の環境省の野生生物保護センター（釧路湿原野生生物保護センター）や国立公園の状況について詳しく理解することができた。野生動物保護のための政策やその方法についてしっかり学ぶことができ、公園のスタッフも根気強く私たちのさまざまな疑問に答えてくれた。

2つ目は、日本人は仕事が緻密だということ。私たちの旅程は細かくスケジュールリングされ、時間の配分もちょうど良かった。こうしたことはすべて、スタッフの行き届いた心配りの賜物であり、とても心地よい体験をさせてもらった。

3つ目は、日本の多彩な文化だ。さまざまな食文化や伝統文化を体験し、素晴らしい温泉体験もさせてもらった。

今回の交流を通じて、中日両国の参加者が相互理解を深め、友好関係を結ぶことができた。

中国に帰ったら、同僚たちと今回の活動で得た専門知識を共有し、友人たちに美しい景色や食べ物の思い出、交流体験の感想などをシェアしたい。そして彼らにも、もっと日本よく知るために、一度日本を訪れてみるよう薦めるつもりだ。

最後に、この場を借りて、私たちをサポートしてくださった関係機関や指導者の方々に感謝を申し上げたい。

○中国野生動植物保護交流団の団員として、日本を訪れ、野生動植物について日本の皆さんと交流する機会を与えていただき、光栄に思う。今回の交流で、まず印象的だったのは、日本側スタッフの細やかで行き届いた手配の内容だ。訪日の前日に在中国日本国大使館で行われた説明会及び壮行会に始まり、来日後の日中友好会館によるさまざまなプログラムに至るまで、すべてに彼らの情熱と真心を感じた。とても感謝している。次に印象に残っているのは、北海道で視察した3カ所の国立公園内の自然生態系の保護状況と、進んだ環境保護教育についてだ。北海道のように自然が美しく、且つ、人によって破壊されていない、あるいは人による破壊の危機にも面していない場所は中国には少ないため、日本の現状には驚かされた。いずれの公園にも環境保護を提唱する教育施設が設置され、その内容の深さ、多様さ、施設の美しさに感心しきりだった。中国も参考にすべきだ。

最後に、日本政府が今回の事業をスタートさせた当初の目的が、他国の青少年を日本に招聘し、日本の開かれた心を知ってもらうことだということに、私はとても感動した。帰国したら、日本の先進的な部分や秩序の保たれた社会について同僚や友人たちに話して聞かせたい。また、環境保護

や野生動植物の保護に対する日本の考え方や具体的な政策を紹介し、もっと彼らに、リアルで多面的な日本を理解してもらいたいと思う。

○ 1. 日本の環境は清潔で、人々は礼儀正しく、買い物をする時やバスを待つ時など、自発的に列を作り、とても秩序を保った行動をとる。また、どこへ行っても非常に清潔で美しく、それは東京でも北海道でも変わらない。都会と田舎で清潔度に差がないのだ。

2. 日本では国立公園や湿地の生態系の保護において、政府、NGO、財団、ボランティアなどさまざまな機関の力を上手く利用し、作業効率を上げると同時に、コストダウンを図っている。

3. 環境省と地方の担当部署が合同会議を行うことで、関連する問題について有効的な意見交換と意見調整を行っている。同時に科学分野の専門家を招聘し、専門家会議を開いたり、問題分析を行ったりしている。

4. 日本の国民は、環境保護意識が非常に高い。特に北海道では、食品や装飾品のパッケージなどに野生動物を知ってもらうための文言が盛り込まれ、動物を保護する意識が人々の生活のいろいろな所に浸透している。